

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101319		
法人名	社会福祉法人 創世福祉事業団		
事業所名	社会福祉法人創世福祉事業団 グループホーム「輝きの郷」		
所在地	福島県福島市山口字七口13-1 (電話) 024-525-5077		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.10.23	評価確定日	H20.11.25

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤 1人, 常勤換算8.625 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,700 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1		要介護2		4 名	
要介護3	4 名	要介護4		1 名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かんの消化器科外科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは平成12年設立以来今年で満8年を迎え、母体法人創世福祉事業団の傘下で、着々と認知症対応共同生活介護のノウハウを積み重ねている。また、地域密着型施設として地域住民の信頼も厚く、運営理念にある「ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒に」を文字通り実践しているホームである。特に、理念の最後にある「一緒に」が特徴的であり、利用者と職員が常に喜怒哀楽を共にし、日々の生活を利用者・職員ともに全員一緒に楽しい共同生活を過ごせるよう園長・管理者以下全員で目的を共有しているところが大きな特徴である。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目は全て改善されていた。特に職員の研修・同業者との交流・家族への報告等に関しては著しい改善が見られた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	利用者に対するサービスの向上については常に全職員で意見の交換と情報の共有を図っており、今回の自己評価も全職員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は回を重ねるごとに施設側と地域住民側との距離感が近くなってきており、双方向から積極的・建設的な意見交換が多くなってきている。利用者家族の出席が多く、家族からの意見や地元老人会からの意見や、また介護施設への社会的関心事(介護職員への待遇の問題)などについて幅広く意見の交換を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	2ヶ月に1回開催している運営推進会議には利用者の家族から3名の出席があり、忌憚のない意見の交換を行なっている。その他家族の訪問時には、家族応接室を使用しスナップ写真のアルバムを見たりしながら、利用者と一緒にゆっくりした時間を過ごすことができ、職員は会話の中から苦情や不安をお聞きし、日頃の運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を通して地域とのおつきあいを密にしており、地域ボランティアや文化祭等での交流も図っている。また地域のお祭では山車のそばまで出かけて地域の人たちと交流を図っているが、災害時の訓練等では近隣の住民参加による連携が若干不足している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型施設の理念として「ゆっくり、ゆったり、楽しく、一緒に」を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記理念の中でも特に「一緒に」が特徴的であり、全職員が利用者と一緒に理念の実践に向けて取り組んでいる姿勢が強く感じられた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体が地域に密着した運営を行っており、事業所へも地域ボランティアの訪問があるほか、地域の文化祭、地域のお祭りなどに積極的に参加し、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	園長以下管理者・職員は評価の意義を理解しており、常に職員全員による話し合いと、サービスの改善に向けた意識の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催されている運営推進会議は、地域包括支援センターをはじめ地元町内会・老人会・利用者家族など地域住民や関係者が中心となっており、双方向型の意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行している「ホームだより」と一緒に個人の近況報告を送付し、金銭管理や職員の異動等についても報告を行なっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の多くは近隣住民の方で、家族の訪問が多く、その都度管理者や職員との話し合いが密に行われており、その内容を運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ここ1年間の職員の異動は無く、新規採用者は1名である。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みは着々と実行されており、今年は1名が県介護実践者研修、2名が介護福祉士、1名が介護支援専門員等を目指している、また法人内の研修、県グループホーム連絡協議会の各種研修会に積極的に参加し職員のレベル向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は県グループホーム連絡協議会加入の県北地区同業者が集い、6施設による相互訪問の交流会を実施した。初めての企画であったが有意義な交流が行われた。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共用空間には利用者が生けた生花が各所に飾られ、また壁面に飾る十五夜お月さまの折り紙模様を利用者と職員が共に製作した。食事の準備などを含めて、本人と一緒に過ごす時間を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究・研修東京センター方式のアセスメントを使用した個々人の思いや意向の把握が実行されており、本人や家族から把握した情報が詳細に蓄積されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向と、職員全体からの意見を集約し、関係者全員の意見を反映した介護計画となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごとの介護計画は出来ているが、3ヶ月または随時の見直しについては不十分である。	○	利用者全員が十字在宅医療クリニック（往診専門のクリニック）の定期的往診を受けており、その結果些細な体調の変化についても、介護計画の随時の見直しを行ない、現状に即した計画を作成してほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の同意および従来のかかりつけ医との了解を得て、今年7月から十字在宅医療クリニックの在宅診療(月2回の往診)とかかりつけ医との連携診療を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は基本的には看取りを行なっておらず、重度化や終末期に向けた利用者、家族との方針は共有化されていない。	○	終末期、重度化の問題は、避けては通れない問題であり、できるだけ早い機会に家族やかかりつけ医との話し合いを持ち、全員で方針を共有していただきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応は行なっていない。また個人情報の取扱いにも充分留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは基本的には決まっているが、お花を生ける人、自室で日誌を書く人など、一人ひとりのペースに合わせた余暇の過ごし方を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に楽しみながら食事をしており、準備や後片付けも利用者が職員と一緒に賑やかに楽しく行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	露天風呂のような感覚で楽しめる大きな浴槽が設置され24時間利用可能である。利用者は夜間の入浴も可能であり、温泉気分で入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	生け花、裁縫、編物、日誌の記入など利用者の生活歴に合わせた楽しみごとや、散歩や買い物など気晴らしの支援を行なっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天候の具合を見て事業所周辺の散歩、近くのスーパーへの食材の買い出しなど、戸外への外出支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関等の施錠は一切行っていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>法人全体の災害対策講習会や毎月の避難訓練は行なっているが、夜間想定での避難訓練は行われていない。また、運営推進会議において地域住民、関係者に働きかけを行ってはいないが、実際の避難訓練への住民参加は行われていない。</p>	○	<p>今後は夜間を想定した避難訓練や、地域住民の協力を得て入居者の救出を想定した避難訓練など実際に即して訓練を行ってほしい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員である栄養士の管理の下に毎食のカロリーが計算され、水分や栄養バランスも一人ひとりに応じた支援を行っている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広々とした共用空間は季節の飾りつけや生け花によって快適な生活空間を作り出しており、不快な臭いや音も無く、居心地よく過ごせる工夫が施されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室は、それぞれの生活歴により、仏壇を持ち込んだり、書籍棚を持ち込んだり、本人が安心して過ごせる生活空間を創り出している。</p>		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム「輝きの郷」

記入担当者名 山我 トモ子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。